

平成30年3月1日（木）

P T A 振興会会報（定時制）

秋田県立本荘高等学校 校長 今井 智幸

未来を生き抜く力を育むために

18世紀末以降の水力や蒸気機関による工場の機械化である第1次産業革命、20世紀初頭の分業に基づく電力を用いた大量生産である第2次産業革命、1970年代初頭からの電子工学や情報技術を用いた一層のオートメーション化である第3次産業革命。その第3次産業革命に続く、ICT（情報通信技術）、AI（人工知能）等の高度な発達による第4次産業革命の到来が、今予測されています。

これまで、変化の激しい社会を「生きる力」とは、「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」という「知・徳・体」の統合した力であるとされてきました。平成29年3月に公示された、一定の教育水準を確保するため基準を示す次期学習指導要領では、第4次産業革命を見据え、予測不能な変化の時代に柔軟に対応する「生き抜く力」として、

- (1) 生きて働く「知識・技能」
- (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」
- (3) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」

という三つの柱を定め、幼小中高を問わず発達段階を踏まえ、全ての学校で育むこととしています。実はこれは、新しい時代に必要となる資質・能力という視点から捉え直した新しい学力観、つまり学力の三要素でもあるのです。

本校定時制の今年度の教育方針は、

- (1) 教育活動全体を通じて、未来を切り拓く人間力や社会に貢献する人材を育成する
- (2) キャリア教育の充実の下、志高く自己実現を果たそうとする態度を育成する

と決めました。「未来」には、生徒一人ひとりの未来、ここ由利本荘市・にかほ市の未来、ふるさと秋田の未来、そして21世紀という未来、という意味が込められています。また、生徒一人ひとりの将来の社会的・職業的自立を支援する教育活動が、キャリア教育です。

生徒たち一人ひとりが、人生の様々な困難を乗り越え、個々の幸福な人生を追求すると同時に、社会に貢献する力を育む、そのような人材を育成するという本校の教育的使命と願いが述べられています。本校定時制を巣立っていく生徒一人ひとりが、これからの激動の時代をよりよく生き抜く力を育むのが、本校の教育方針です。

今後とも、保護者・教育振興会・同窓会等の学校関係者や地域社会との連携・協働を深めながら、生徒たちの未来を拓く「生き抜く力」を育むために、職員一同力を尽くして教育活動に努めていく所存です。これまでと変わらない御理解と御協力、御支援をお願い申し上げます。